



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年2月現在、川崎3、横浜2、県域13 計18名で活動中！

～ '06年神通研集会 第1分科会報告～

☆「聞こえないこと・手話のこと」
一般社会が理解していないところは？

～ろう協と一般社会の間に立つことで
あらためて感じたこと～

- ・ ろう者と電話で打ち合わせをしようとされた
- ・ 手話のテキストに載っている手話が、絶対に正しいと思っている人がいる
- ・ 大きな声を出せば聞こえると思っている
- ・ 骨伝導式の携帯電話ならば聞こえると思っている

～理解がなかなか届かない社会ですが、
少しずつ変わってきたこともあります～

- ・ ろう学校でも少しずつ手話への理解や手話の出来る先生が増えてきている
- ・ 以前は手話で会話しているとジロジロと見られたが、最近は羨ましそうに（特に若い女の子達）見られる
- ・ 駅・電車・バス等に電光掲示板が増えてきことは助かる
- ・ 手話を習っている人はろう者がいなくても手話を付けて会話してくれれば、何か起こったときに助けを求められる。町の中で手話を見かける機会が増えていってくると嬉しい

～ 定例会 ～

☆1/21（日）定例会を行いました。

午前中に行われた神通研の学習会「サークル交流会これではっさり」報告。“初めまして”のサークルの人たちと楽しく交流が出来、今後もこのように気軽に楽しく参加できる学習会もあると嬉しいとの声がありました。

日誌誌「読者のページ」に掲載されていた「手話講習会が試験に合格するための内容になっている」について。サークルの講習会化や学習したいサークル会員と交流したいろう者という課題を抱えたまま「全国手話検定試験」が始まり、考え方も多様化している現在ですが、個人の考え方を尊重しつつ、サークルの基本的なあり方だけは伝え続けていきたいと思ひます。

サークルに今求められている災害時の活動について、今後も講習会等も視野に入れながら検討していきたいと思ひます。

【次回定例会】2月25（日）13:00～15:00
かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

手話サークル研究班も発足して早4年目...。試行錯誤でのスタートでしたが、今は会員も増え毎月の定例会では皆思いを熱く語りあっています。手話サークルは手話学習者の大切な土台。今年サークル歴10年目を迎える私も、原点に戻ってあらためてサークル運営について考えたいと思ひます。

☆S.N.☆